2.

水田稲作・弥生の始まり　縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる

猪名川東岸と伊丹空港にはさまれた猪名川の河口域　　2012. 12. 21.

弥生時代の初め、数多くの集落があり、縄文系の人達との交流があったという

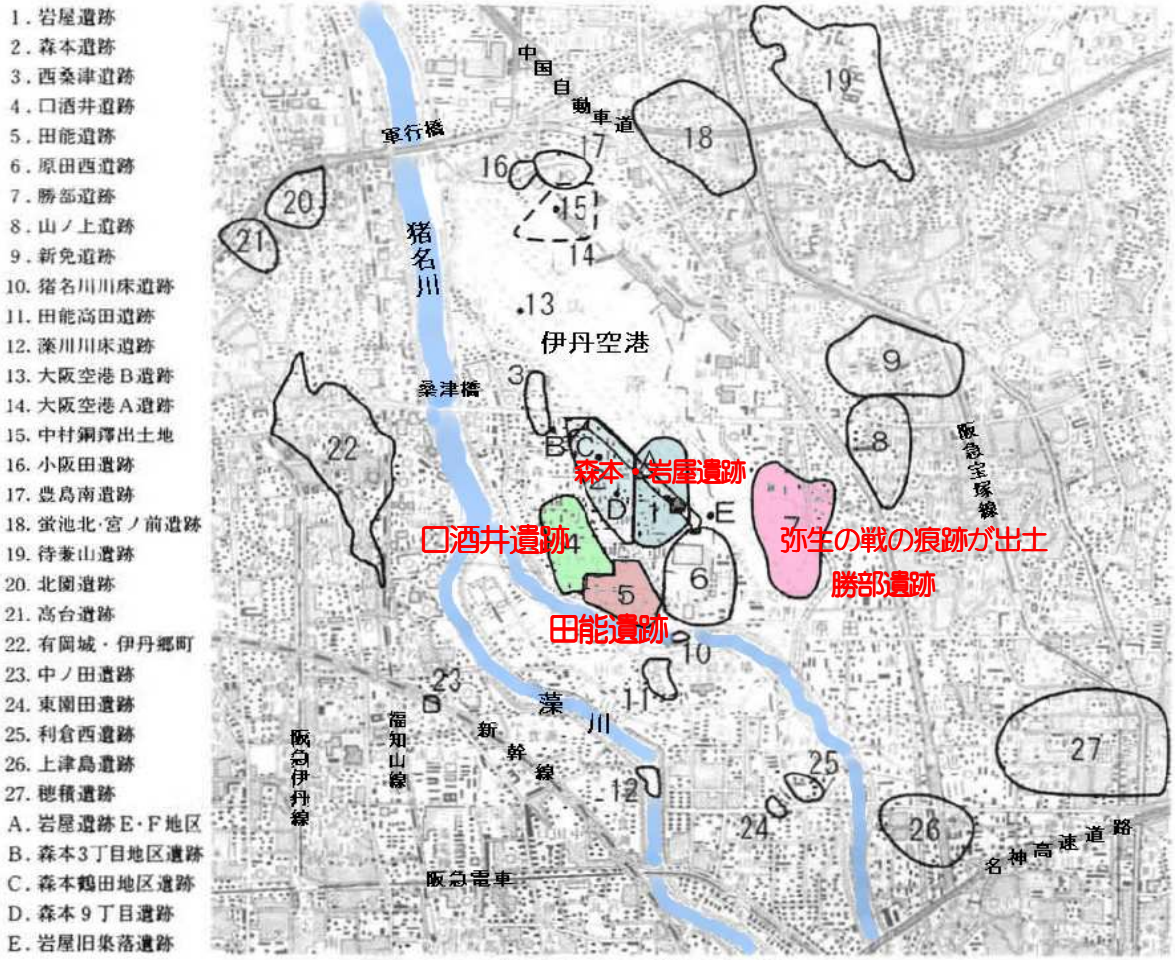


図１　岩屋遺跡と周辺の弥生時代の遺跡（S＝1/50,000）

昨年の 12 月　尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港。この空港と西側の猪名川に挟まれた狭い地域には　かつて、縄文晩期から弥生時代にかけて数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人達が交流したという。

土地・水利をめぐる弥生の戦はあったが、縄文／弥生系の人達は交流・混在・融合しながら、水田耕作の弥生社会を作り上げたという。こんなことを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が今都市化の波の中で忘れ去られようとしている。

田能遺跡で「弥生の鉄」の展覧会があるのを機会に　この田能遺跡とすぐ近く口酒井遺跡を訪ねました。

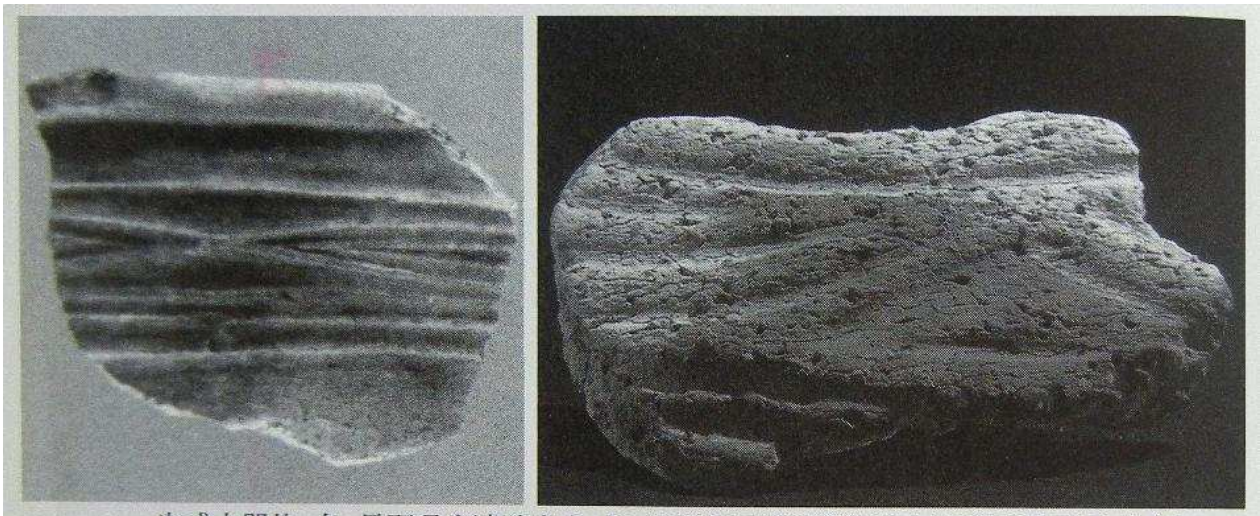
「鉄」を考えるとき、いつも頭の片隅をかすめる「弥生の戦」

「森の民縄文人は水田耕作の弥生人によって追い払われたのか???」

平和な時代縄文から弥生の時代へ　「弥生の戦は鉄が日本に持ち込まれた為なのか???」

「各地で弥生の戦は起こったが、弥生人と縄文人が対峙し、戦った」という構図はなく、むしろ集落に、飛び込んできた縄文系　弥生系の人達と一緒に生活し、それぞれの文化・技術を融合して行ったという。

NHK 出版「日本人はるかな旅　第５巻　そして”日本人が生まれた”」によれば、
弥生早期頃、東日本の縄文系の人達がたこの大阪湾沿岸のこの地にやってきて、在来の人達と一緒に生活していたことを初めて解き明かしたのが、口酒井遺跡集落だという。



氷式土器片。左・長野県氷遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土［伊丹市教育委員会］

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡　口酒井遺跡。約２千３百年前（弥生前期）

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

中里遺跡の土器。左は渡来系、右は縄文系［玉川文化財研究所］

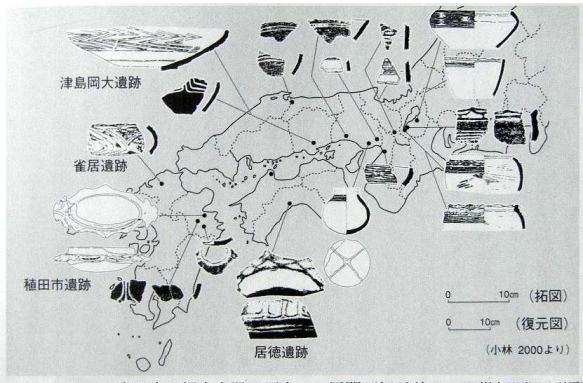


図７　東日本の縄文土器の西方への展開（紀元前４－３世紀頃）

そんな　縄文と弥生の人達の交流・文化融合を始めて解き明かしたのが、口酒井遺跡だという。
このような縄文系・弥生系の人達の融合による日本人の形成については日本人の DNA 分析からも明らかになっている。

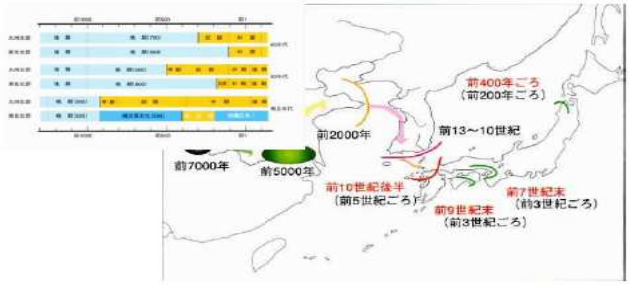
口酒井遺跡は私には重要な遺跡に見えるのですが、阪神間にいてもこの遺跡の場所を知る人は少なく、忘れかけられている。
私も伊丹空港の西側の猪名川周辺と聞くだけでよく判りませんでした。
田能遺跡には立派な資料館があるので、今回　資料館で教えてもらって現地に行ってこようと。

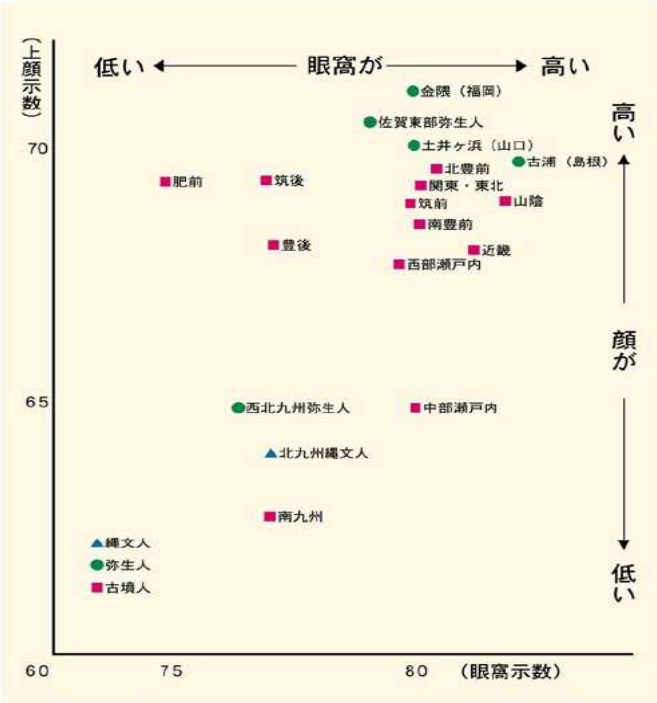
● 縄文人と弥生人の融合　和鉄の道　2006.10 月　弥生の高地性集落に「弥生の戦さ」・「日本人のルーツをさがして」より

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

1. 混 血 の 進 行

渡来的形質とされる顔の高さ、眼窩の高さ、梨状孔（鼻の部分の孔）の細長さを示す示数を軸にとって古墳人をみてみると、梨状孔は九州内では筑前から離れるほど横広になり、本州では北部九州と近畿・山陰を細長さの二つのピークとして中部瀬戸内が谷間のようになっているのがわかる。
また、関東・東北も同様な値であり、近畿からの流れで理解できる。
ところが、顔の高さは、九州内では南九州を除くとそう大差はない。
しかし、本州では梨状孔と同じく北部九州と近畿・山陰をピークとして中部瀬戸内が谷間のように低い。
逆に、眼窩の高さをみると、九州内では筑前と他の地域に差があり、本州では山陰・近畿が高い値を示すものの大差はない。
また、関東・東北の古墳人は顔の高さも眼窩も高い値を示しており、北部九州の弥生人・古墳人とほぼ同じである点は注目される。

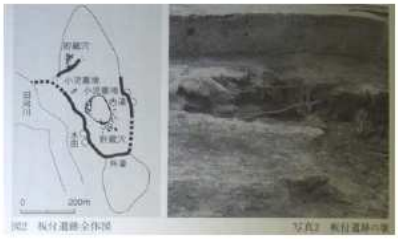




日本列島における稲作・弥生文化の東進　　歴博藤尾らによって　最近の年代測定により弥生時代は 500 年遡ると提案
黒字はその新年代提案　　従来の縄文晩期後半を弥生時代　早期と呼ばれることが多くなっている。

● 弥生の遠賀川式土器と縄文土器の共存

板付遺跡などを含め、福岡県　遠賀川下流域は弥生農耕文化発祥地のひとつに挙げられています。北部九州で始まった農耕文化は東日本に伝播して行きますが、農耕文化と共に遠賀川式土器も東進し、農耕開始期の指標とされています。一方　東国の縄文土器が西日本各地で見られる。
これは、東の縄文人が積極的に西日本の渡来系弥生集落で共存し、農耕文化を習得していった証と見られている。



このような事象から縄文人と弥生人が同じ地域の中で共存・融合しながら、水田稲作を中心とする弥生の文化が花開く。
それが　さらには　新しい耕地・水利をめぐる集落間・地域間の争いをめぐって、集落内での地位格差　地域・集落間の格差を生み、争いに備える体制　環濠集落・高地性集落そして国へと発展していったと考えられている。

● 尼崎市田能遺跡　近畿の弥生時代ほぼ全期間に及ぶ大集落跡で九州北部特有の甕・壷棺墓 4 基出現

田能遺跡は、尼崎市の東北端、標高 7m、猪名川左岸に営まれた弥生時代(2300-1700 年前）の集落跡です。遺跡は東西約 110m、南北 120m 以上の広さがあります。弥生時代は我が国で稲作農耕が始まった時代で、田能の弥生人たちも川沿いのやや高いところに溝をめぐらし、住居を造り、低湿地で水田をつくったようです。遺跡は長期間にわたり生活の 場となったため、家の柱穴、ゴミ捨て穴、貯蔵の穴、排水の溝など多数の遺構がありました。人々の生活した竪穴住居も３棟が明らかになっています。また、ここは墓地としてもつかわれ 、木棺墓８基、土こう墓５基、壺・甕棺墓４基が発見されました。
遺跡の発掘は昭和 40 年の工業用水道の配水建設現場から、大量の弥生式土器が発見された事にはじまる。その後約１年間にわたる調査の結果、弥生時代前期から古墳時代中期にわたる大集落跡であることが確認された。この遺跡でもっとも注目される遺構は、墓と、それに伴う埋葬の状況であった。それまで近畿地方では、弥生時代の墓の発見例は少なく、その実体はほとんど不明のままであった。ここでは、木棺墓８、土こう墓５，壺棺墓３，甕棺墓１の計１７基の墓が発見された。うち１５基は１つのグループに、残り２基はそれらとは離れた場所に埋葬されていた。調査の結果、壺・甕を棺に利用した壺棺・甕棺墓、遺骸の埋葬可能な程度に掘り窪めた土こう墓、厚い板を組み合わせた木棺墓の３種類の埋葬方法が明らかになった。残存した人骨によって、壺・甕が子供や乳幼児の埋葬に用いられたこと、土こう墓には木の蓋が存在していたこと、木棺には高野槙か中国産の木が使用されていたことなどが確認されている。
木棺墓に埋葬されていた男性のうち２体には、 623 個以上の碧玉製管玉を装着した遺体と、左腕に白銅製釧（くしろ：腕）をした遺体も発見された。上半身には朱が施されており、この２基だけが明らかに特別扱いされている。ムラの首長クラスだった事をうかがわせる。
これらの埋葬方法のうち、特に壺棺・甕棺などは当時北九州で盛んに用いられた埋葬方式である。
言い換えると　この田能遺跡が弥生時代の初期から機能していたことを考えると「縄文系弥生人の集落が渡来系弥生人の農耕を学び　九州からやって来た渡来系弥生人と融合しつつ　この集落を弥生の中心集落に発展させていった」田能遺跡の弥生の墓群は縄文系弥生人と渡来系弥生人融合を示すモニュメントであるかもしれない。

1.　大阪湾の海岸部　猪名川河口周辺　弥生の大集落　田能遺跡　へ

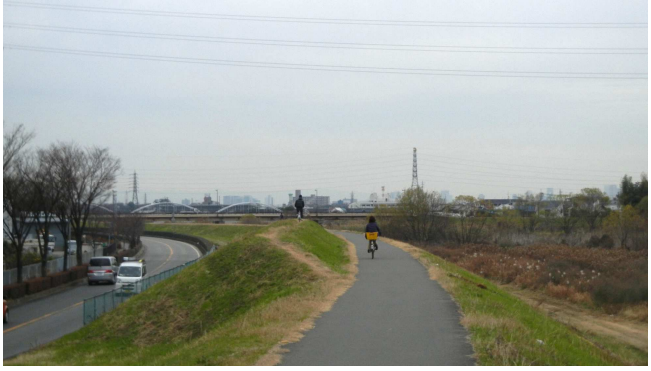
田能遺跡は尼崎市の北東端、尼崎市田能字中ノ坪（現在の田能 6 丁目）　猪名川左岸に接する標高約６ｍの沖積平野にあり、昭和 40 年 9 月尼崎・西宮・伊丹三市共同の工業用水配水場の工事現場で大量の土器が発見されたことがきっかけとなり、その後１年間にわたり発掘調査が行われ、弥生時代の全期間にわたる大集落跡で、国の史跡に指定されている。

　　住居のほかそれまで不明であった近畿地方弥生時代の墓制を明らかにした木棺墓、土壙墓、壺・甕棺墓などの墓が発見。木棺墓の中には碧玉製管玉の首飾りや白銅製の腕輪を身につけた特別な扱いをうけていたと思われる人物の墓がありました。発掘された遺構は地下に保存された後、全面に土盛りし植栽を施し、屋外には住居や高床倉庫などを復元し、出土した資料は資料館で公開している。

尼崎が故郷の私には、当時　センセーショナルに発掘が伝えられたのを覚えている。
もっとも、田能遺跡が尼崎の北東端で　伊丹・豊中・尼崎の境で尼崎の交通網から外れて便利が悪く、園田の競馬場の北側と認識。市バスが通っているのですが、本数も少なく見学に行ったのは随分後である。
今回もやっぱり自分の良く知った道　阪急塚口駅から市バスに乗って、園田競馬場横の田能口で下車して　田能の集落を北にぬけて、猪名川の土手に出て、対岸へ渡れば田能遺跡である。
　この道しか知らなかったのですが、猪名川の土手に立って北を見ると川の北西岸に福知山線伊丹駅周辺のショッピングセンターが見える。最近　伊丹に住む娘一家を訪ねて伊丹周辺の事情がわかってき手、これだったら福知山線の猪名寺駅や伊丹駅から行った方がはるかに便利。　バスの便を考えると帰りは伊丹から帰りました。

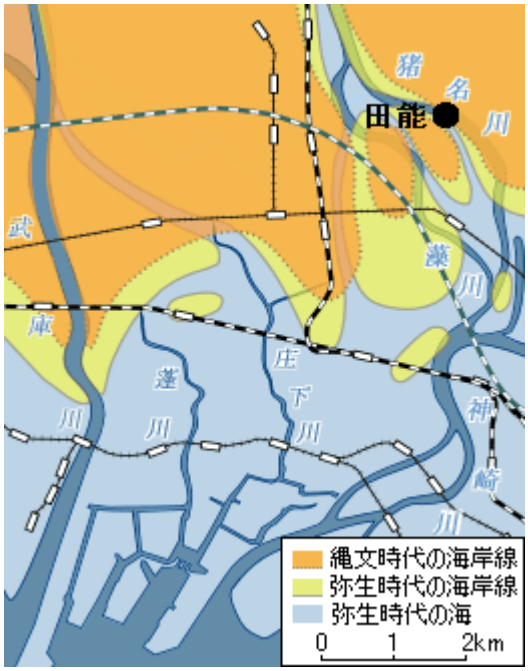
猪名川の西岸猪名川橋周辺から東岸口酒井地区　工業用水配水場・田能遺跡を眺める　　2012. 12. 21.
東岸の工場・住宅群の中に口酒井遺跡・田能遺跡　これらの後ろが伊丹空港である
猪名川の東岸に沿う共同工業用水排水場と田能遺跡資料館の森までが田能遺跡

このあたりは、弥生時代には　猪名川・淀川が注ぎこむ大阪湾の海岸近くの平野部で、この周辺には数多くの弥生の集落があった。　岸に立って東を眺めると　ひっきりなしに伊丹空港から北へ飛び立ってゆく飛行機が見える。

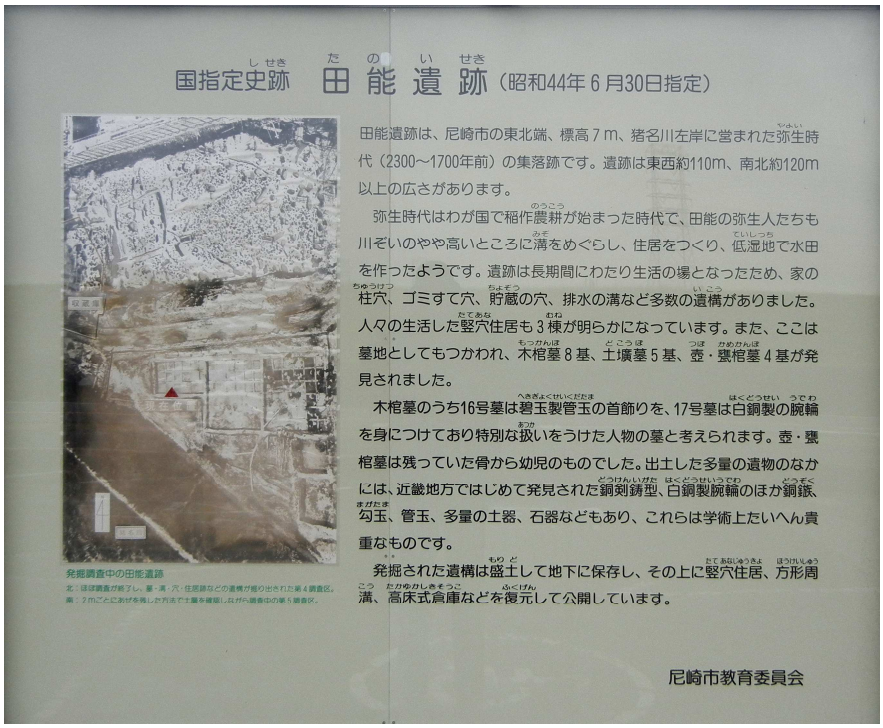


猪名川　上流側　伊丹の市街地が見えている　　猪名川の下流側　尼崎園田地区

猪名川東岸　田能遺跡横からの風景　今は海岸がはるか南で　周辺がかつて海岸近くとは思えない　2012. 12. 21.



弥生の大集落　田能遺跡



国指定史跡　田能遺跡（昭和44年6月30日指定）

田能遺跡は、尼崎市の東北端、標高7m、猪名川左岸に営まれた弥生時代（2300～1700年前）の集落跡です。遺跡は東西約110m、南北約120m以上の広さがあります。

弥生時代はわが国で稲作農耕が始まった時代で、田能の弥生人たちも川ぞいのやや高いところに溝をめぐらし、住居をつくり、低湿地で水田を作ったようです。遺跡は長期間にわたり生活の場となったため、家の柱穴、ゴミすて穴、貯蔵の穴、排水の溝など多数の遺構がありました。人々の生活した竪穴住居も3棟が明らかになっています。また、ここは墓地としてもつかわれ、木棺墓8基、土壙墓5基、壺・甕棺墓4基が発見されました。

木棺墓のうち16号墓は碧玉製管玉の首飾りを、17号墓は白銅製の腕輪を身につけており特別な扱いをうけた人物の墓と考えられます。壺・甕棺墓は残っていた骨から幼児のものでした。出土した多量の遺物のなかには、近畿地方ではじめて発見された銅剣鋳型、白銅製腕輪のほか銅鏃、勾玉、管玉、多量の土器、石器などもあり、これらは学術上たいへん貴重なものです。

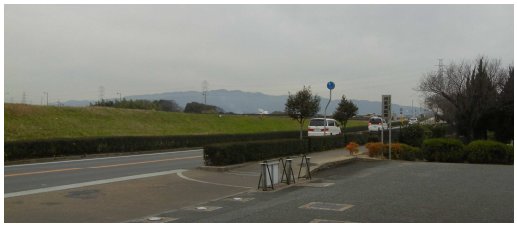
発掘された遺構は盛土して地下に保存し、その上に竪穴住居、方形周溝、高床式倉庫などを復元して公開しています。

発掘調査中の田能遺跡

尼崎市教育委員会

田能遺跡資料館の門を入ると　資料館の前から南側に田能遺跡の竪穴住居などが復元した公園として整備されていました。発掘された遺構はそのまま埋め戻して保存し、その上に盛土して竪穴住居・方形集溝・高床敷き倉庫などを復元展示されている。　それにしても　この遺跡が出土した頃の報道・熱気からすると復元地が非常にせまいなぁ・・・と。

入口にあった案内板によると田能遺跡資料館が建っている北側の工業用水ポンプ場が建っている場所全体も田能遺跡の発掘調査された場所であると知れる。やっぱり　田能遺跡全体の広さを眺めるには　猪名川の土手に登って眺めないと全体が見えない。また、google 写真から鳥瞰するのが、一番かも知れぬ。



田能遺跡資料館の北側　猪名川沿いの工業用水配水場　ここも全体が田能遺跡の一部である　2012.12.21.

2. 田能遺跡資料館「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展示

縄文時代から弥生時代への大きな変化として、本格的な米づくりの開始と青銅器や鉄器などの金属器が伝わったことが挙げられる。特に、鉄器が伝わる前は石の道具≪石器≫が使われていましたが、鉄の堅くて切れ味が鋭いという利点から、次第に石器から鉄器へと移り変わっていったと考えられている。今回の展示では、弥生時代の近畿地方において、どのような種類の鉄器があり、どのようにつくられ、どのように使われていたのかを紹介。現在では欠かせないものとなった鉄が、日本に伝わったころの様子に迫る。

「弥生の鉄　石器から鉄器へ」パンフレットより

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

ー石器から鉄器へー

星丘遺跡鉄器及び鉄片（左）と鉄器づくりに使用した可能性のある石器（右）
所　　蔵：枚方市教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪展示構成≫

1　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

鉄器の生産には、とても高度な技術が必要でした。そのため、弥生時代の近畿地方では、鉄器づくりをおこなえたムラは少なかったと考えられています。このようなムラの１つで、近年発見され、このたび国の史跡に指定される見通しとなった兵庫県淡路市・五斗長垣内遺跡を中心に、近畿地方の鉄器生産の遺構について紹介し、金属が伝わったころの鉄器づくりをひもときます。

2　鉄器の登場

兵庫県内の、確実な例としては最古級の鉄器である、神戸市新方遺跡の鋳造鉄斧片（弥生時代中期中ごろ）などを紹介し、いつごろ近畿地方に鉄器が伝わったかを紹介します。

3　さまざまな鉄器

弥生時代の鉄器は、鉄鏃を除けば、鉄斧や鉄鉋などの工具として一般に広まっていったと考えられています。弥生時代のさまざまな鉄器と、その使い方について解説します。

4　鉄器のつくり方

弥生時代の近畿地方の鉄器生産は、まだ未成熟なものでした。つくり方のわかる鉄器などから、近畿地方を中心とした鉄器づくりの方法を紹介します。

5　見えざる鉄器について

弥生時代後期には多くの鉄器が存在していましたが、溶かして再利用されたり腐蝕によって多くが失われたりしたため鉄器が見つからないという説が、いわゆる「見えざる鉄器」論です。弥生時代後期の遺跡から石器がほとんど見つからないことも、鉄器が普及した証拠の１つとされてきました。

弥生時代後期には近畿地方にどのくらい鉄器が広まっていたのでしょうか。尼崎の石器から考えます。

雲井遺跡鉄鉋
所　　蔵：神戸市教育委員会
写真提供：　　同　上

亀井遺跡鉄鏃
所　　蔵：（公財）大阪府文化財センター
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪主な展示品≫

- 兵庫県五斗長垣内遺跡 鉄器 鉄片 石器（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県内場山墳丘墓 袋状鉄斧 鉄鉋（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県半田山１号墳丘墓 鉄剣（兵庫県指定文化財）
- 大阪府星丘遺跡 鉄器 鉄片 石器
- 大阪府鬼虎川遺跡 鉄鏃 鉄鑿（大阪府指定文化財）
- 大阪府古曽部・芝谷遺跡 板状鉄斧 鉄鉋 刀子
- 兵庫県奈カリ与遺跡 板状鉄斧 鉄鏃
- 兵庫県雲井遺跡 鉄鉋
- 兵庫県新方遺跡 鋳造鉄斧片
- 大阪府亀井遺跡 鉄鏃 板状鉄斧 鉄鑿
- 大阪府崇禅寺遺跡素環頭大刀片

その他約 300 点を展示

崇禅寺遺跡素環頭大刀片
所　　蔵：大阪府教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

ゆう

テーマ１　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

- **板状鉄斧レプリカ**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **鉄器および鉄片**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **石製工具**／五斗長垣内遺跡／弥生時代後期
- **鉄器および鉄片**／星丘遺跡／弥生時代後期
- **石製工具**／星丘遺跡／弥生時代後期／

テーマ２　鉄器の登場

- **鋳造鉄斧片**／新方遺跡／弥生時代中期中ごろ
- **鉄鏃**／居住・小山遺跡／弥生時代中期中ごろ
- **鉄やりがんな**／戎町遺跡／弥生時代中期中ごろ

テーマ３　さまざまな鉄器

- **鉄鏃**／奈カリ与遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄鏃**／表山遺跡／弥生時代中期末～後期前半
- **板状鉄斧**（兵庫県指定文化財）／有鼻遺跡／弥生時代中期後半
- **板状鉄斧**／古曽部・芝谷遺跡／弥生時代後期前半
- **袋状鉄斧**／亀井遺跡／弥生時代後期後半
- **袋状鉄斧**（兵庫県指定文化財）／内場山遺跡／弥生時代終末期
- **鉄やりがんな**／雲井遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄やりがんな**／芝花弥生墓群／弥生時代後期前半
- **鉄鑿**／七日市遺跡／弥生時代後期
- **鉄鑿**／亀井遺跡／弥生時代後期後半
- **鉄製刀子**／古曽部・芝谷遺跡／弥生時代後期前半
- **鉄製刀子レプリカ**／田辺天神山遺跡／弥生時代後期後半
- **鉄剣レプリカ**／有鼻遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄剣**（兵庫県指定文化財）／半田山１号墳丘墓／弥生時代後期
- **素環頭大刀片**／崇禅寺遺跡／弥生時代終末期～古墳時代初頭

テーマ４　鉄器のつくり方

- **板状鉄斧**／瓜生堂遺跡／弥生時代中期後半
- **鉄鏃**／鬼虎川遺跡／弥生時代中期前半～中ごろ
- **鉄のみ**／鬼虎川遺跡／弥生時代中期前半~中後ろ

・テーマ５　見えざる鉄器について

- **弥生時代前期の石器**／上ノ島遺跡
- **弥生時代中期の石器**／武庫庄遺跡
- **弥生時代後期の太型蛤刃石斧**／中ノ田遺跡

田能遺跡資料館の「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展では、兵庫県や大阪の大阪湾周辺の弥生の集落遺跡から出土した実用鉄器が数多く展示されていました。　鉄器の展示というとすぐに古墳から出土する威信材　武器・武具が中心になるのですが、古墳時代前の弥生時代　実際に使われた実用鉄器が数多く並べられていて、その使い方や鉄器技術の進歩などが丁寧に解説されていた。　展示の目玉は国内最大級の鍛冶工房村　淡路島五斗長垣内遺跡から出土した鉄器　兵庫県で一番古い鉄器　神戸新方遺跡の鋳造鉄斧や高地性集落　神戸表山遺跡野鉄鏃　そして尼崎　上ノ島遺跡や武庫庄遺跡の石器も。

尼崎の鉄器というと古墳時代　畿内の鍛冶工房群のさきがけとなった若王寺遺跡があるのですが、
古墳時代の遺跡のため、展示がありませんでした。
また、芦屋の高地性集落会下山遺跡は最近の発掘で大規模な鍛冶工房があったといわれていますが、
まだ　評価が確立していないのか　展示がありませんでした。

また、「幻の鉄器」の時代と呼ばれる弥生時代の後期　大阪湾周辺では石器の出土が急激に減少し、鉄器の普及が進んだといわれるのですが、なぜか鉄器の出土がなく「幻の鉄器」の時代と呼ばれる。

この「幻の鉄器」の存在については　研究者によって意見が分かれているのですが、
本展示では「鉄器は普及したが、貴重品として再利用されたか、土の中で腐食してなくなったために
出土しない」との考えにもとづく展示がなされていました。

この件について　私は「幻の鉄器」の存在には疑問を持っているのですが、実用鉄器の普及してゆくプロセス・鍛冶技術の進歩や大陸・朝鮮半島との交流など　次の古墳時代への時代アプローチとして重要な課題を提供。

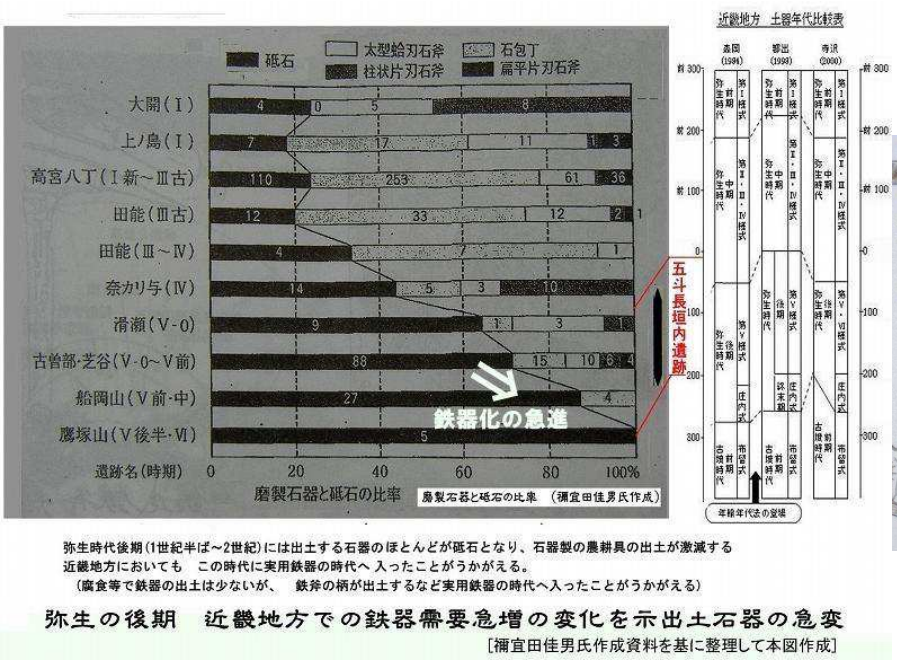
兵庫県暦博のシンポ　五斗長垣内遺跡出のシンポでも話題になりましたが、今回の展示でも　その根拠について　新しい論拠は示されていませんでしたが、重要なテーマであろう。

【参考】和鉄の道　2011

近畿 弥生時代後期　淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の２・３世紀

「鉄器は出土しないが、急速な鉄器化が進行したという「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符

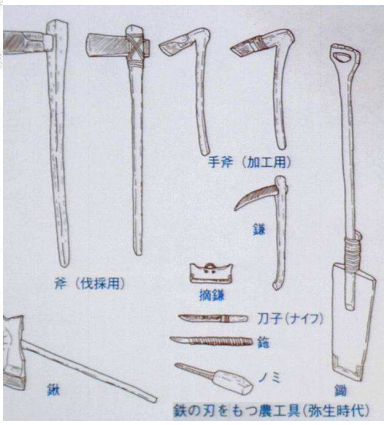
http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1103iron00.htm



弥生時代後期(1世紀半ば～2世紀)には出土する石器のほとんどが砥石となり、石器製の農耕具の出土が激減する
近畿地方においても　この時代に実用鉄器の時代へ入ったことがうかがえる。
(腐食等で鉄器の出土は少ないが、　鉄斧の柄が出土するなど実用鉄器の時代へ入ったことがうかがえる)

弥生の後期　近畿地方での鉄器需要急増の変化を示出土石器の急変

[禰宜田佳男氏作成資料を基に整理して本図作成]



鉄の刃を持つ農耕具の一例

「鉄器は腐食で土に帰ってゆくため出土しないが、鉄器の木製の柄が多数出土する　」
「石器出土数に対する砥石数が急速増加。石器が減少し、鉄器の研磨が急速増加したことが推定される　」との考え方

兵庫県・大阪湾沿岸の弥生時代の実用鉄器を集めた展覧会　小さな特別展でしたが、数多くの実用鉄器に出会えて　ラッキーでした。　また、この弥生時代の鉄器の展開にこの猪名川の川岸に存在した弥生遺跡群の役割が　加えられればもっと良かったのになぁ・・・と。

3.　東日本の縄文系の人が一緒に暮らしていた弥生の集落　口酒井遺跡　約２千３百年前(弥生前期)。

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡

田能遺跡資料館で「口酒井遺跡」へ行きたいのですが、位置を教えてくださいと訪ねると「この田能遺跡のすぐ、北側の工場街の中で、確か伊丹の埋蔵文化財センターの分室が建っているはず。行ったことがないので、正確な位置はわからぬ」と色々電話をかけていただいた。

「重要な弥生遺跡で国の史跡の指定を受け、史跡公園にすると聞いているが、動いた形跡はないなぁ」とも。

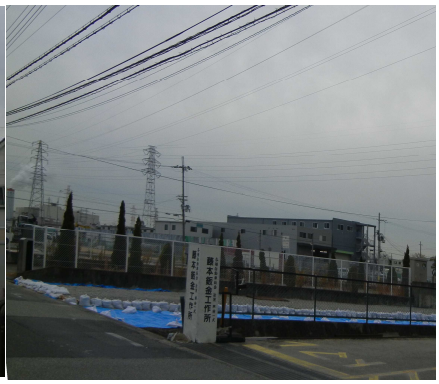
電話で伊丹市に場所を聞いていただいたり、色々してもらったのですが、「目標がないので　教え方難しい」と。「この資料館のすぐ北東のところで、案内板も何もないが、埋文センターの建物がある」と教えていただいて、すぐそこなので　一筋ずつ調べてもすぐ行けると歩き出す。

田能遺跡の横　猪名川の土手から　北摂の山並を眺める　左端が宝塚　　2012.12.21.

猪名川の土手を北へ　　橋の向こうに JR 伊丹駅のショッピングセンターが見え、ここからだと伊丹駅へ出るのが一番便利が良いと知れる。　土手から東側に広がる口酒井地区の工場街へ入ってゆく道を探しながら歩き出す。　かつては猪名川東岸の荒地だったのでしょうが、北端に口酒井の集落・住宅地があり、その手前には小さく区分けされて、町工場がびっしり詰まっている。

土手から眺める口酒井地区の工場街　この工場街のあたりが口酒井遺跡

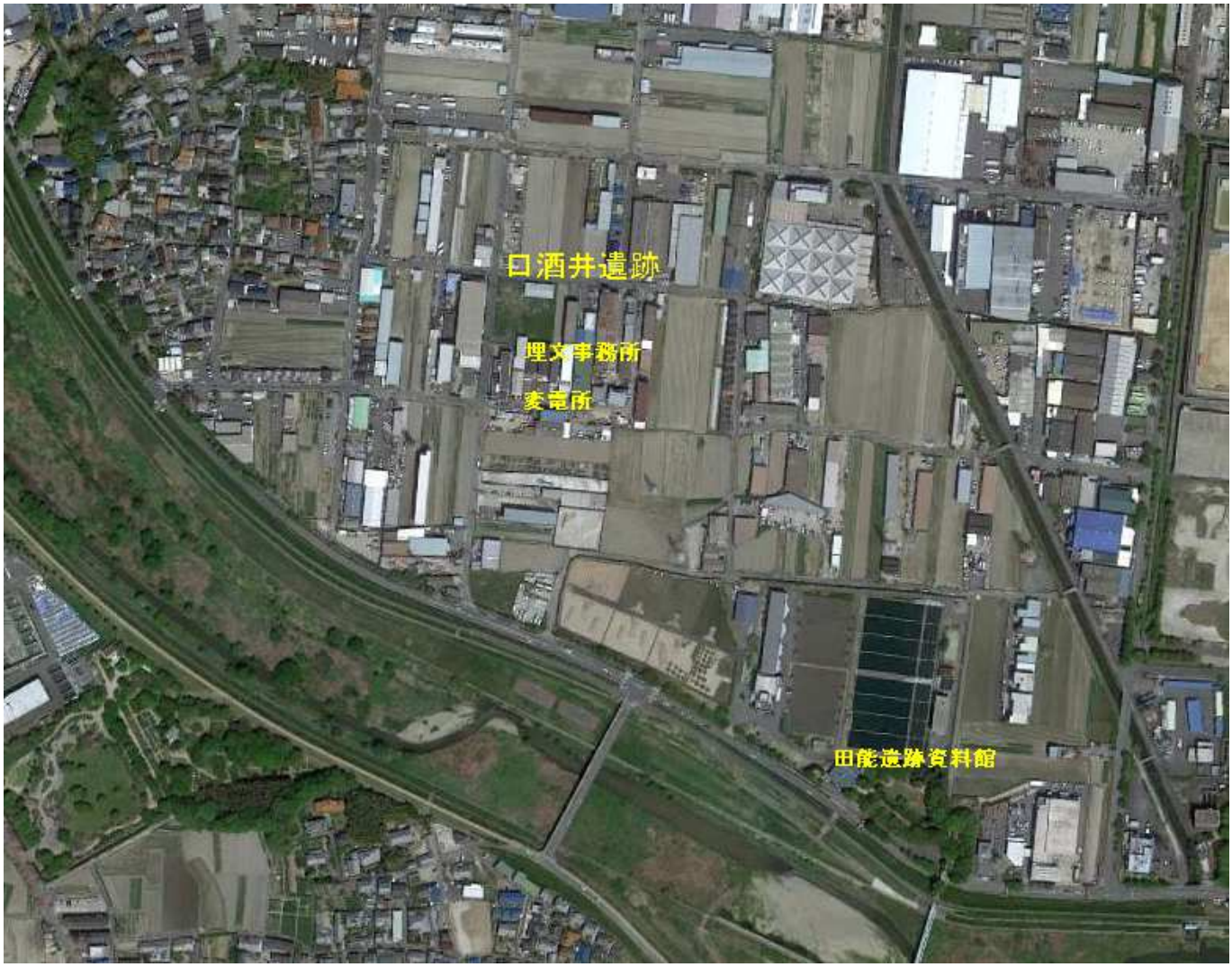
土手から直角にまっすぐ東へ入る道を見つけて、口酒井地区へ入ってゆく。住宅の角先にいる人に、「このあたりで、発掘調査していた遺跡を教えて」と聞くとすぐに「まっすぐ行って　突き当りを北に折れたところ　変電所の横だ」とすぐわかった。「あぁそうか　こんなに沢山の送電鉄塔が渡っていくのは　変電所があるから」。



田能遺跡からゆっくり、15 分ほどで、工場街の真ん中にある変電所と金網で囲まれた草地が見え、草地の端に「伊丹市埋文口酒井整理事務所」の看板の上がった建物があり、ここが弥生の初め、東日本からやってきた縄文系の人達が、農耕を始めた弥生の人達と暮らした口酒井遺跡と知れた。

口酒井遺跡　伊丹埋分事務所と変電所がある通り　2012. 12. 21.

口酒井遺跡　北西端から　　2012. 12. 21.



猪名川土手　東へ入る　口酒井地区への入口　　2012.12.21.

【参考資料】

1. 和鉄の道 2006.10 月　弥生の高地性集落に「弥生の戦さ」・「日本人のルーツをさがして」
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

2. 和鉄の道　2011　近畿 弥生時代後期　淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の 2・3 世紀
「鉄器は出土しないが、急速な鉄器化が進行したという「幻の鉄器」の時代があった」という考えには疑問符
http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1103iron00.htm

3. NHK 出版「日本人はるかな旅　第 5 巻　そして”日本人が生まれた”」

4. 田能遺跡資料館　特別展「弥生の鉄　石器から鉄器へ」パンフレット

5. 「糸糸　海」30 巻　伊丹文化財保存協会

【参考添付資料】

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

ー石器から鉄器へー

あの五斗長垣内遺跡の鉄器がやって来る！

入館無料

はじめに

縄文時代から弥生時代への大きな変化として、本格的な米づくりの開始と青銅器や鉄器などの金属器が伝わったことが挙げられます。

特に、鉄器が伝わる前は石の道具《石器》が使われていましたが、鉄の固くて切れ味が鋭いという利点から、次第に石器から鉄器へと移り変わっていったと考えられています。

今回の展示では、弥生時代の近畿地方において、どのような種類の鉄器があり、どのようにつくられ、どのように使われていたのかを紹介します。現在では欠かせないものとなった鉄が、日本に伝わったころの様子に迫ります。

金属の腕輪をつくろう

11月23日(金・祝) 午後１時～午後４時

定員20人(小学生以下の方は保護者同伴) 材料費700円

【田能資料館Ｅメールか電話でお申し込みください】

必要事項　住所・氏名・電話番号・年齢

(学校に通われている方は学校名と学年も)

Ｅメール：ama-tanosiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

でんわ：06－6492－1777 (田能資料館開館時のみ)

申込期限　11月15日(木) まで

※応募者多数片の場合は抽選し、結果は11月16日(金) に連絡します。

展示解説会

当館学芸員が解説します

11月18日(日)・12月８日(土)・１月19日(土)

いずれも午後１時から

無料　申し込み不要　当日直接展示会場へ

展示期間

平成24年 **11月10日(土)** ～ 平成25年 **1月20日(日)**

展示場所

尼崎市立田能資料館　展示・学習室

〒661-0951 兵庫県尼崎市田能6-5-1　TEL/FAX：06-6492-1777　入館料：無料

開館時間：午前10時～午後５時(入館は午後４時30分まで)

休 館 日：月曜日(月曜が祝休日の場合は直後の平日)，年末年始 (12月29日～１月３日)

尼崎市公式ホームページから「田能資料館」を検索、または http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/gakusyu/index.html

尼崎市教育委員会 主催

写真：五斗長垣内遺跡の板状鉄斧ほか鉄製品
(淡路市教育委員会提供)

第42回尼崎市立田能資料館特別展

弥生の鉄

ー石器から鉄器へー

星丘遺跡鉄器及び鉄片（左）と鉄器づくりに使用した可能性のある石器（右）
所　　蔵：枚方市教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪展示構成≫

1　五斗長垣内遺跡と弥生時代の鉄器生産遺構

鉄器の生産には、とても高度な技術が必要でした。そのため、弥生時代の近畿地方では、鉄器づくりをおこなえたムラは少なかったと考えられています。このようなムラの１つで、近年発見され、このたび国の史跡に指定される見通しとなった兵庫県淡路市・五斗長垣内遺跡を中心に、近畿地方の鉄器生産の遺構について紹介し、金属が伝わったころの鉄器づくりをひもときます。

2　鉄器の登場

兵庫県内の、確実な例としては最古級の鉄器である、神戸市新方遺跡の鋳造鉄斧片（弥生時代中期中ごろ）などを紹介し、いつごろ近畿地方に鉄器が伝わったかを紹介します。

3　さまざまな鉄器

弥生時代の鉄器は、鉄鏃を除けば、鉄斧や鉄鉋などの工具として一般に広まっていったと考えられています。弥生時代のさまざまな鉄器と、その使い方について解説します。

4　鉄器のつくり方

弥生時代の近畿地方の鉄器生産は、まだ未成熟なものでした。つくり方のわかる鉄器などから、近畿地方を中心とした鉄器づくりの方法を紹介します。

5　見えざる鉄器について

弥生時代後期には多くの鉄器が存在していましたが、溶かして再利用されたり腐蝕によって多くが失われたりしたため鉄器が見つからないという説が、いわゆる「見えざる鉄器」論です。弥生時代後期の遺跡から石器がほとんど見つからないことも、鉄器が普及した証拠の１つとされてきました。

弥生時代後期には近畿地方にどのくらい鉄器が広まっていたのでしょうか。尼崎の石器から考えます。

雲井遺跡鉄鉋
所　　蔵：神戸市教育委員会
写真提供：　　同　上

亀井遺跡鉄鏃
所　　蔵：（公財）大阪府文化財センター
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

≪主な展示品≫

- 兵庫県五斗長垣内遺跡 鉄器 鉄片 石器（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県内場山墳丘墓 袋状鉄斧 鉄鉋（兵庫県指定文化財）
- 兵庫県半田山１号墳丘墓 鉄剣（兵庫県指定文化財）
- 大阪府星丘遺跡 鉄器 鉄片 石器
- 大阪府鬼虎川遺跡 鉄鏃 鉄鑿（大阪府指定文化財）
- 大阪府古曽部・芝谷遺跡 板状鉄斧 鉄鉋 刀子
- 兵庫県奈カリ与遺跡 板状鉄斧 鉄鏃
- 兵庫県雲井遺跡 鉄鉋
- 兵庫県新方遺跡 鋳造鉄斧片
- 大阪府亀井遺跡 鉄鏃 板状鉄斧 鉄鑿
- 大阪府崇禅寺遺跡素環頭大刀片

その他約 300 点を展示

崇禅寺遺跡素環頭大刀片
所　　蔵：大阪府教育委員会
写真提供：大阪府立弥生文化博物館

●電車とバス

・**阪急園田駅から**　尼崎市バス20・21・21-2・22系統
「田能口（たのうぐち）」バス停下車後、北へ徒歩15分

・**ＪＲ猪名寺駅から**　尼崎市バス20系統
「田能口」バス停下車後、北へ徒歩15分

・**阪神尼崎駅から**　尼崎市バス22系統
「田能口」バス停下車後、北へ徒歩15分

●お車　駐車場あり（無料）

・名神高速豊中インターより北西約３km

・阪神高速豊中南出口より北西約３km